

報道機関各社 様

坂本龍一と真鍋大度による作品のモエレ沼公園への設置が決定！ 参加アーティスト島袋道浩の作品概要も固まる

このたび、札幌国際芸術祭 2014 のゲストディレクター「坂本龍一」と参加アーティスト「真鍋大度」によるメディアアート作品に関する具体的な展示内容と、参加アーティスト「島袋道浩」の作品概要が決定しました。

芸術祭ゲストディレクターの「坂本龍一」と Perfume の舞台演出サポーターや「カンヌ・ライオンズ」での受賞で注目を集める「真鍋大度」がコラボレーションする新作「センシング・ストリームズ—不可視、不可聴」が、モエレ沼公園のガラスのピラミッドで展示されることが決定しました。

「島袋道浩」は、平取二風谷から石を運び、北3条広場に展示するプロジェクト「一石を投じる」と、体験型作品「携帯電話を石器と交換する」を出展することが決定しました。

また、残念ながら、参加アーティストの一人である「大竹伸朗」の作品「時憶/美唄」の展示を見送ることになりました。

芸術祭の出展概要につきまして、皆様の媒体でご紹介いただけると幸いと存じますので、ご協力をお願いいたします。

1 坂本龍一と真鍋大度の作品について

(1)「センシング・ストリームズ—不可視、不可聴」

札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）で開催される展覧会「センシング・ストリームズ」において、その空間に流れる不可視、不可聴データを真鍋大度が可視（映像）化し、坂本龍一が可聴（音楽）化し、ガラスのピラミッドに特設された巨大ビジョン※に映し出します。

この作品は、当初、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）会場のみでの展示を予定していましたが、作品を作成するに当たり、規模が拡大し、モエレ沼公園のガラスのピラミッドで展示されることが決定したものです。

[概要]

作品名：センシング・ストリームズ—不可視、不可聴

アーティスト名：坂本龍一＋真鍋大度

展示期間：2014年7月19日～9月28日

展示会場・時間・内容：

・札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）

11：00～19：00

[内容]アーカイブ展示を予定

- ・モエレ沼公園ガラスのピラミッド「HIDAMARI」
（札幌市東区モエレ沼公園 1-1）
9：30～17：00（土曜は 19：00 まで）
[内容]巨大ビジョン※での展示

※ソニーPCL 株式会社「4KVIEWING™」より提供する、自発光型超高精細大型ビジョン。詳細：www.sonypcl.jp/sonypcl/press/press14/140310.html

○ガラスのピラミッドでの作品展示時間は、「7月、8月の土曜日は 20 時まで（9 月中は 19 時まで）」と一部発表されていましたが、本作の展示にあたり、通期で土曜日は 19 時までと変更になりました。御了承ください。

(2)プロフィール

<真鍋 大度 まなべ・だいと>

1976 年生まれ。東京理科大学理学部数学科卒業、国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）DSP コース卒業。ジャンルやフィールドを問わずプログラミングを駆使して様々なプロジェクトに参加。MIT MediaLab、Fabricaをはじめ世界各国でワークショップを行うなど教育普及活動にも力を入れる。

Prix Ars Electronica では 2009 年度審査員を務め、2011 年度インタラクティブ部門準グランプリ受賞。文化庁メディア芸術祭においては大賞 2 回、優秀賞 2 回、審査委員会推薦作品選定は 8 回を数える。2010 年より Perfume の演出サポートを担い、ディレクションを担当した「Perfume Global Site Project」はカンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル、サイバー部門にて銀賞を受賞、LED インスタレーションを担当した「Sound of Honda - Ayrton Senna 1989」がチタニウム部門でグランプリほか 15 部門で受賞。米 Apple 社の「Mac 誕生 30 周年スペシャルサイト」にてジョン前田、ハンズ・ジマーを含む 11 人のキーパーソンの内の一人に選出されるなど国際的な評価も高い。



2 島袋道浩の作品について

(1)「一石を投じる」

「石が、札幌の街を見にやってきて、閉幕とともに石がまた自然の場所に帰っていく」という平取二風谷から石を運び、また、元に戻すプロジェクト。

都市整備された札幌市内中心部に、自然そのものである石が期間中現れる状況が作り出されます。

石は、芸術祭のオープニング時期は北3条広場で公開し、会期中は市内を移動する予定です。



(2)トークイベント「アート×ライフは社会、そして人々の心に一石を投じる」

- ・日時：7月19日（土）17：30～18：15
- ・会場：札幌市北3条広場
- ・内容：島袋道浩が展示作品や、芸術祭にかける思いを、坂本龍一とともに語ります。
- ・参加希望の方は、当日直接会場へ

(3)「携帯電話を石器と交換する」

今や私たちの生活に欠かせない道具である「携帯電話」をしばらくの間だけ、人類最古の道具である「石器」に持ち替えて、「かつて鮭のいた場所で水の音を聞く」ために散策するプロジェクト。近代美術館の向かいの空き地に、携帯電話を石器に交換するワゴンを設置します。

(4)プロフィール

<島袋道浩 しまぶく みちひろ>

1969年生まれ。

1990年代初頭より世界中の多くの場所を旅しながら、そこに生きる人々や新しいコミュニケーションのあり方に関するパフォーマンスやインスタレーション作品などを制作している。

島袋道浩の行動や行為に対する「なぜ？」が生まれ、その答えを人それぞれにもたらず。またそれぞれにそれぞれの答えのあることを許すといった楽しみのある体験、自由で寛容な状況は強く人々を惹き付け続けている。近年はベルリン（ドイツ）を拠点にヨーロッパで数多く作品を発表している。



パリのポンピドゥ・センター、ロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展や2003年ヴェネツィア・ビエンナーレ、2006年サンパウロ・ビエンナーレ、などの国際展に多数参加。2013年には金沢21世紀美術館やイギリス、バーミンガムのアイコン・ギャラリーで個展を開催。2014年にはスイスのクンストハーレ・ベルンやカナダ、バンクーバーのコンテンポラリー・アート・ギャラリーでの個展を予定している。

3 大竹伸朗の出展について

以下の理由により、大竹伸朗の「時憶/美唄」について、展示を見送ることになりました。

大竹伸朗氏の作品「時憶/美唄」につきましては、大竹氏のご提案により札幌市資料館正面玄関の庇上に設置すべく準備を進めてまいりました。しかしながら、設置場所の状況や作品の維持管理方法などを総合的に検討した結果、主催者として会期を通して作品を展示することの安全性について確証が得られず、展示を見送らざるを得ないという判断に至りました。

大竹氏には作品の展示に向け、最後までご尽力頂きましたこと、また、当実行委員会の判断を受け入れていただきましたこと、心から御礼申し上げます。主催者として展示を実現できなかったことにつきまして、大竹氏、関係者各位、及び作品を楽しみにしていただいていた皆様に深くお詫び申し上げます。

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会

今回の出展には、作品の強度や設置における安全性に関して、様々な角度から専門家による綿密な検証をふまえて万全な準備をして来ました。しかし、主催者側の最終的な判断により出展には至らぬ結果となり、大変残念な思いでいっぱいです。

出品予定であった「時憶/美唄」は、個人的に縁の深い北海道・札幌という地で、ぜひとも御覧いただきたいと希望していましたので、結果力及ばず、楽しみにしていただいていた方々には大変申し訳なく思っております。

大竹伸朗

詳細) 創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局
(札幌市観光文化局国際芸術祭担当) 小倉・山田 電話：211-2314